

令和4年度 第1回 大阪市障がい者施策推進協議会 精神障がい者地域生活支援部会

1. 日 時：令和4年9月6日（火）午前10時00分～12時15分

2. 場 所：大阪市こころの健康センター大会議室

3. 出席委員：芦田委員、大野委員、鍵本委員、倉田委員、澤委員、潮谷委員、島田委員、新田委員、檜委員（五十音順）

4. 会議内容

議題1 大阪市における精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの概要

【資料1に基づき説明】

- ・地域移行支援についてのオンラインによる支援について具体的な取り組み内容について教えていただきたい。
⇒病院内別室からタブレット、スマートフォンなどを利用しリモートでの面会を実施している。
- ・オンラインでの対応の実数把握は行っているのか。
⇒実数の把握は行っていないが、件数としては多くはない。
- ・府下どこの医療機関でも、オンラインで対応できるよう病院、大阪府と協力しながら行っていただきたい。
- ・オンライン面会のための端末の整備等取り組んでいただきたい。
- ・入院患者数について何かコントロールはあるか
⇒入院患者数についてのコントロールは行っておらず、大阪府下の病床数からするとしかるべき数値である。
- ・地域で生活される方の支援を手厚く行っていただきたい。

議題2 退院阻害要因から見えてきた課題について

【資料2に基づき説明】

- ・どのような支援により、地域に帰ることができるのかも報告内容として必要だと思う。
- ・退院後の受け皿整備を行い、入院患者本人が望む場所で暮らせるようにすべき。
- ・入院病院と密接な連携を取り、退院意欲の喚起を行ってほしい。
- ・地域の受け皿である通所施設がコロナ禍で利用人数を制限しているが、大阪市からの指導なのか教えてほしい。
⇒大阪市からは基本的には通常サービスの提供をしていただくようお願いしている。
- ・サービス事業所に対し、定期的なPCR検査の補助を行ってほしい。
⇒従事者を対象に定期的なPCR検査を行っている。
- ・コロナ禍で長期入院患者と地域の間には距離が空いている。オンラインでの交流会などを開催してもらいたい。
- ・地域での情報が長期入院の方へ伝わるようにしてほしい。
- ・以前、入院時に自分の意思が表明でき退院に向けての手順が分かるものを作成してほしいとお願いしていたが進捗について教えてほしい。
⇒大阪府と情報共有を行っている。

議題3 令和3年度こころの健康センターの「にも包括」に係る取り組みについて退院阻害要因から見えてきた課題について

【資料3-1から3-4に基づき説明】

- ・ピアサポーターに対する心のケアが必要と思う。
- ・地域活動支援センターとピアサポーターの連携のシステムについて検討してほしい。
- ・地域での生活の基盤として、住宅の確保について重要である。
- ・地域生活移行推進事業、被保護精神障がい者等地域移行支援事業についてコロナ禍もあり成果につなげることがかなり難しいと思うが、地域移行においては重要な事業であるので継続をしていただきたい。
- ・被保護精神障がい者等地域移行支援事業で地域移行された方のその後の状況について教えてほしい。
⇒5名のうち4名は救護施設入所中。1名は救護施設からグループホームへ入居。

議題4 地域生活移行推進事業に関するアンケート結果について

【資料4に基づき説明】

- ・事業についての理解があまりなされていない医療機関への啓発が必要
⇒病院へ地域生活移行推進事業についてのイメージを持っていただく事が課題であるとアンケートを通じ認識した。
機会がある際には、病院へ訪問し職員へ直接説明する時間を取っていきたい。

議題5 居住支援等に関する取り組みについて

【資料5に基づき説明】

- ・住宅確保要配慮者専用住宅は、全国的には13%ぐらいだと言われてはいますが、大阪では何%ぐらいあるのか。
⇒専用住宅と言われているものは5%程とわかる。
- ・高齢者住宅財団さんを利用するときの家賃は生活保護とか、障がい者年金とかで暮らせる家賃なのか。
⇒高齢者住宅財団が家賃を設定しているという事ではない。

議題6 令和4年度大阪市障がい者等基礎調査の概要について

【資料6に基づき説明】

- ・今回からオンラインでの回答ができるということについての情報提供を行っていただきたい。